

一億総活躍社会とイノベーション (1)

9月24日の総裁選で無投票再選された時の安倍首相の記者会見において、アベノミクスの新三本の矢が発表されました。前の三本の矢はどこへ飛んで行ったのか、評価も、総括もないまま、いきなり、5年後にGDP600兆円なのかいと考えてしまいました。

計算したところ2015年の名目GDP500兆円から目標達成には、3.7%の年平均成長率が必要、実質533兆円から見れば2.7%となりました。2012年-0.45%、2013年1.75%、2014年1.61%の実績から考えると厳しい数字です。(GDPの出典は「世界経済のネタ帳」)

新しく設置された一億総活躍大臣(実際には女性活躍、再チャレンジ、拉致問題、国土強靱化も兼務で担当)という任務について、二階俊博総務会長の「馳先生、あんな大臣(一億総活躍大臣)ならんでよかったね」発言がちょっとした話題になっています。真意は大変難しい担当分野という趣旨の発言だと推察されます。全国民が活躍する社会は理想ですが、そこに至る具体的な道筋をどうやって、どの様に描くかが問われてきます。

企業等でもイノベーションが重要だと言うことで、イノベーション対策室とか推進室が設置されますが、その任に当たる方々の精神的なプレッシャーが大変だと聞いています。

とはいえ、「強い経済」一億総活躍社会、GDP換算600兆円位達成しないことには、2010年の消費税10%も消化しきれず、国民生活が一段と苦しくなるのも目に見えています。

※次回のnano2bizで、「一億総活躍社会」担当の何が大変なのか、私見を述べさせていただきます。

図表 アベノミクス 第2ステージに移行

アベノミクスの「三本の矢」

第一の矢 大胆な金融政策

- ・企業・家計に定着したデフレマインドを払拭

第二の矢 機動的な財政政策

- ・デフレ脱却をよりスムーズに実現するため、有効需要を創出

第三の矢 民間投資を喚起する成長戦略

- ・民間需要を持続的に生み出し、経済を力強い成長軌道に乗せていく

アベノミクス新三本の矢：「一億総活躍社会」

「強い経済」目標 2020年の国内総生産(GDP)600億円の達成

「子育て社会」現在は1.4程度の出生率を1.8程度に回復

「社会保障」介護施設の整備や介護人材の育成により介護離職ゼロ